

学習方法の異なる2タイプの科目により、データサイエンスの基礎から実践的な学びを展開

いまの自分の、その先へ。

基礎から実践、専門分野へステップアップ！  
文科系学生が主体の学部横断・地域課題解決型のデータサイエンス教育

プログラムの  
学修成果

1. データ・AI活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値を説明できる。
2. データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解し、習得する。
3. コンピュータを使ってデータを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツールなどを用いて、表現することができる。

入門

データサイエンス基礎

(全学共通教育科目：必修科目・1年次)

ステップアップ

実践

データサイエンス・プログラム

(全学共通教育科目：選択科目・2年次)

履修目標

データサイエンスの意義と目的についての理解を踏まえ、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につけ、統計学の知見に基づいたデータの加工・分析・表現技法の知識・技術を習得する。

数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。

授業の方法

e-Learning科目

刻々と変化する社会状況にいち早く対応し、データサイエンスに関する最新情報や技術情報を学生に提供するため、外部企業が作成・更新する学習管理システム（LMS）を導入し、e-Learning 科目として開講。

プロジェクト型学習（PBL）

産業界・行政と連携し、本学の文系総合大学の特色（経営・社会福祉・デザイン・建築分野）を活かして地域社会の課題をデータ・AIを用いて解決する実践応用科目として開講。

主な  
学習支援

授業時間外のオンライン対応

グループウェア（Microsoft Teams）のチャットを活用し、授業時間外の質問・問い合わせに対応している。

チーム・ティーチング

担当教員を2名配置し、授業時間内外における個別指導の機会の創出を図り、学生の学修意欲・理解度の向上に努めている。

補講・個別指導の実施

LMSに蓄積された学習への取り組み状況により、必要に応じて補講・個別指導を実施している。

グループウェアを活用した情報共有・成果の可視化

チームごとにTeams上にグループアカウントを作成し、その中で調査資料や各自が作成した資料のアップロードや課題提出を実施することで、成果をチーム内で可視化している。

教材・資料の常時公開・配信

教材・関連資料は、常時オンライン上にて公開・配信しており、いつでも学習ができる状況を構築している。

チーム内コミュニケーションの状況の把握とフィードバック

Teamsなどによりチーム内のコミュニケーションや進捗状況を細やかに把握し、必要に応じて介入し、円滑に進行できるよう図っている。